

hide

「がんばんだぞ」



遠藤尤

プロローグ

第1章 難病中の難病

●最初の「よき出会い」

●世界で23例目

●h ideとの出会いと自立

●骨髓移植への道

●難病の子の夢をかなえる

●思いがけない感激の連続

●テレビ放映の反響

●「筆無精」からの手紙

●病棟中が大パニック

●姉をドナーに移植

●移植後すぐ危篤に

●『奇跡』が起きた！

●h ideのドナー登録 &記者会見

●ライオンズ日本財団&骨髓バンク推進連絡協議会

●驚きの連続だった募金活動

●広がる「優しさと愛」の輪

●ファンたちのエール

●親を乗り越えた

●Eメール交換

●もうひとりの難病患者

●「勇気」へのステップ

●ボランティア活動

●ボランティア団体の立ち上げ

●遺志を継いだギタリスト

●鎮魂のメッセージ

第4章 骨髓バンクへの協力

第5章 広がる「優しさと愛」の輪

第6章 「勇気」へのステップ

不慮の事故だった——あとがきに代えて
付録——骨髓移植＆骨髓バンク

207

エピローグ

189

199

第4章 骨髓バンクへの協力

第5章 広がる「優しさと愛」の輪

第6章 「勇気」へのステップ

第7章 「勇気」へのステップ

第8章 「勇気」へのステップ

第9章 「勇気」へのステップ

第10章 「勇気」へのステップ

第11章 「勇気」へのステップ

第12章 「勇気」へのステップ

第13章 「勇気」へのステップ

第14章 「勇気」へのステップ

第15章 「勇気」へのステップ

第16章 「勇気」へのステップ

第17章 「勇気」へのステップ

第18章 「勇気」へのステップ

第19章 「勇気」へのステップ

第20章 「勇気」へのステップ

第21章 「勇気」へのステップ

第22章 「勇気」へのステップ

第23章 「勇気」へのステップ

第24章 「勇気」へのステップ

第25章 「勇気」へのステップ

第26章 「勇気」へのステップ

第27章 「勇気」へのステップ

第28章 「勇気」へのステップ

第29章 「勇気」へのステップ

第30章 「勇気」へのステップ

第31章 「勇気」へのステップ

第32章 「勇気」へのステップ

第33章 「勇気」へのステップ

第34章 「勇気」へのステップ

第35章 「勇気」へのステップ

第36章 「勇気」へのステップ

第37章 「勇気」へのステップ

第38章 「勇気」へのステップ

第39章 「勇気」へのステップ

第40章 「勇気」へのステップ

第41章 「勇気」へのステップ

第42章 「勇気」へのステップ

第43章 「勇気」へのステップ

第44章 「勇気」へのステップ

第45章 「勇気」へのステップ

第46章 「勇気」へのステップ

第47章 「勇気」へのステップ

第48章 「勇気」へのステップ

第49章 「勇気」へのステップ

第50章 「勇気」へのステップ

第51章 「勇気」へのステップ

第52章 「勇気」へのステップ

第53章 「勇気」へのステップ

第54章 「勇気」へのステップ

第55章 「勇気」へのステップ

第56章 「勇気」へのステップ

第57章 「勇気」へのステップ

第58章 「勇気」へのステップ

第59章 「勇気」へのステップ

第60章 「勇気」へのステップ

第61章 「勇気」へのステップ

第62章 「勇気」へのステップ

第63章 「勇気」へのステップ

第64章 「勇気」へのステップ

第65章 「勇気」へのステップ

第66章 「勇気」へのステップ

第67章 「勇気」へのステップ

第68章 「勇気」へのステップ

第69章 「勇気」へのステップ

第70章 「勇気」へのステップ

第71章 「勇気」へのステップ

第72章 「勇気」へのステップ

第73章 「勇気」へのステップ

第74章 「勇気」へのステップ

第75章 「勇気」へのステップ

第76章 「勇気」へのステップ

第77章 「勇気」へのステップ

第78章 「勇気」へのステップ

第79章 「勇気」へのステップ

第80章 「勇気」へのステップ

第81章 「勇気」へのステップ

第82章 「勇気」へのステップ

第83章 「勇気」へのステップ

第84章 「勇気」へのステップ

第85章 「勇気」へのステップ

第86章 「勇気」へのステップ

第87章 「勇気」へのステップ

第88章 「勇気」へのステップ

第89章 「勇気」へのステップ

第90章 「勇気」へのステップ

第91章 「勇気」へのステップ

第92章 「勇気」へのステップ

第93章 「勇気」へのステップ

第94章 「勇気」へのステップ

第95章 「勇気」へのステップ

第96章 「勇気」へのステップ

第97章 「勇気」へのステップ

第98章 「勇気」へのステップ

第99章 「勇気」へのステップ

第100章 「勇気」へのステップ

第101章 「勇気」へのステップ

第102章 「勇気」へのステップ

第103章 「勇気」へのステップ

第104章 「勇気」へのステップ

第105章 「勇気」へのステップ

第106章 「勇気」へのステップ

第107章 「勇気」へのステップ

第108章 「勇気」へのステップ

第109章 「勇気」へのステップ

第110章 「勇気」へのステップ

第111章 「勇気」へのステップ

第112章 「勇気」へのステップ

第113章 「勇気」へのステップ

第114章 「勇気」へのステップ

第115章 「勇気」へのステップ

第116章 「勇気」へのステップ

第117章 「勇気」へのステップ

第118章 「勇気」へのステップ

第119章 「勇気」へのステップ

第120章 「勇気」へのステップ

第121章 「勇気」へのステップ

第122章 「勇気」へのステップ

第123章 「勇気」へのステップ

第124章 「勇気」へのステップ

第125章 「勇気」へのステップ

第126章 「勇気」へのステップ

第127章 「勇気」へのステップ

第128章 「勇気」へのステップ

第129章 「勇気」へのステップ

第130章 「勇気」へのステップ

第131章 「勇気」へのステップ

第132章 「勇気」へのステップ

第133章 「勇気」へのステップ

第134章 「勇気」へのステップ

第135章 「勇気」へのステップ

第136章 「勇気」へのステップ

第137章 「勇気」へのステップ

第138章 「勇気」へのステップ

第139章 「勇気」へのステップ

第140章 「勇気」へのステップ

第141章 「勇気」へのステップ

第142章 「勇気」へのステップ

第143章 「勇気」へのステップ

第144章 「勇気」へのステップ

第145章 「勇気」へのステップ

第146章 「勇気」へのステップ

第147章 「勇気」へのステップ

第148章 「勇気」へのステップ

第149章 「勇気」へのステップ

第150章 「勇気」へのステップ

第151章 「勇気」へのステップ

第152章 「勇気」へのステップ

第153章 「勇気」へのステップ

第154章 「勇気」へのステップ

第155章 「勇気」へのステップ

第156章 「勇気」へのステップ

第157章 「勇気」へのステップ

第158章 「勇気」へのステップ

第159章 「勇気」へのステップ

第160章 「勇気」へのステップ

第161章 「勇気」へのステップ

第162章 「勇気」へのステップ

第163章 「勇気」へのステップ

第164章 「勇気」へのステップ

第165章 「勇気」へのステップ

第166章 「勇気」へのステップ

第167章 「勇気」へのステップ

第168章 「勇気」へのステップ

第169章 「勇気」へのステップ

第170章 「勇気」へのステップ

第171章 「勇気」へのステップ

第172章 「勇気」へのステップ

第173章 「勇気」へのステップ

第174章 「勇気」へのステップ

第175章 「勇気」へのステップ

第176章 「勇気」へのステップ

第177章 「勇気」へのステップ

第178章 「勇気」へのステップ

第179章 「勇気」へのステップ

第180章 「勇気」へのステップ

第181章 「勇気」へのステップ

第182章 「勇気」へのステップ

第183章 「勇気」へのステップ

第184章 「勇気」へのステップ

第185章 「勇気」へのステップ

第186章 「勇気」へのステップ

第187章 「勇気」へのステップ

第188章 「勇気」へのステップ

第189章 「勇気」へのステップ

第190章 「勇気」へのステップ

第191章 「勇気」へのステップ

第192章 「勇気」へのステップ

第193章 「勇気」へのステップ

第194章 「勇気」へのステップ

第195章 「勇気」へのステップ

第196章 「勇気」へのステップ

第197章 「勇気」へのステップ

第198章 「勇気」へのステップ

第199章 「勇気」へのステップ

第200章 「勇気」へのステップ

第201章 「勇気」へのステップ

第202章 「勇気」へのステップ

第203章 「勇気

ブログ

写真協力 伊藤まゆみ、稻葉信彦、貴志政人、
東海林のり子、高柳茂、朝井隆司、
渡辺啓二（以上五十音順、敬称略）
全国骨髓バンク推進連絡協議会、
東海大学病院、
マイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン、
ユニバーサル ピクター株式会社
美丁・デザイン 村上研二 (RAXIS DESIGN STUDIO)
電子組版 吉野工房
編 集 鶴野智紀 (小学館)

1998年5月2日――。

新聞のテレビ番組欄は、NHKが深夜に「X JAPANの軌跡・ラストコンサート・イン・東京ドーム」を放映することを伝えていた。

前年の大晦日におこなわれた、X JAPANのラストコンサートの模様は、1月に衛星第1で放送されたが、ファンからの要望が強く、地上波で再放送することになったのだ。

読者が朝刊に目をとおし終わったころ、5人のメンバーのひとり、ギタリストのhideはすでに、この世の人ではなくなっていた。

所属事務所のヘッドワックスオーナイゼーションは、マスコミにアクセスを送った。

『hideこと松本秀人儀、突然の呼吸困難により5月2日午前8時52分死去いたしました』熱狂的なファンを持つ超有名人の死を、マスコミは一斉に「自殺」と報じた。

所属事務所の関係者が最も心配したのは、難病と闘っている貴志真由子さんが、hideの死をどう受け止めるかだった。95年大晦日にhideと対面して以来、ふたりの交流はずつとつづいてきたが、それだけに心配はつのつた。

しかし、なかなか連絡がとれず、やきもきする時間が過ぎていった。

関係者がマスコミ対応などに忙殺されていたとき、真由子さんは両親とともに神奈川県伊勢原市にいた。リハビリ装具を受け取るため、和歌山市の自宅から東海大学病院にやつてきたのだ。病院

の中にいるあいだ、携帯電話の電源は切られていた。

午後4時過ぎに病院の外へ出てから、父の政人さん^(まさと)がスイッチを入れるとすぐ呼び出し音が鳴つた。hideのファンで一家とも親しい富山県の藤井智子さんからだつた。

「hideさん、亡くなつたの知つてる?」

「エッ、hideさんが死んだ?」

政人の問い合わせ横で聞いていた真由子さんが、激しく泣き始めた。だが、両親ともまるで実感がわかぬ。

すぐ、hideのマネジャーからも電話が入つた。

「マスコミに発表する前に、真由子さんにはいち早く知らせたかたなんですが……」

ニュースを通じて知らせるより、真由子さんには直接伝えたかったようで、和歌山の自宅や携帯電話に何度もかけたというが、スイッチを入れていなかつたから、全く通じようがなかつたのだ。

真由子さんが泣き叫ぶ声で、通話内容がよく聞こえない。母の和子さんは近くの公衆電話から事務所にかけ直した。

マネジャーもhideが亡くなつたと明言した。

「まさか……」

両親は、これは何かの間違いだろうと思つた。間違いでなければ、手の込んだトリックではないか。そういうえば、hideは突つ拍子もないことをしては、人が驚くのを喜ぶような茶目っ氣があ

つた。

ともかく、3人は伊勢原市内のホテルに急いだ。東海大学病院を訪れるときは、いつも伊勢原の知人宅に泊まるのだが、この日は h i d e の母が経営している横須賀のパブへ寄ることになっていた。話し込めば遅くなるので知人に迷惑がかかるからと、ホテルを予約しておいた。

午後6時台のテレビ各局のニュースは、すべて「h i d e の自殺」を告げていた。こうなれば、まぎれもなく h i d e が亡くなつたと思わないわけにはいかない。

「顔を見るまでは、絶対に信じない！」

真由子さんはそう言つたきり、ひとことも発しないまま、食事もとらずに泣きつづけた。

一夜明けた3日午前、h i d e の母・順子さんから携帯に電話がかかってきた。

「真由子ちゃんに悪いことしちやつて、ごめんなさいね。病気に影響ないかしら」

細かい事情はともかく、わが子が亡くなつたというのに、真由子さんの身を心配してくれたことに、和子さんはびっくりした。

「この母にして、この子ありだわ。h i d e ちゃんは、お母さんの優しさを、そのまま受け継いでたんだものね」

初めて h i d e と対面した2年半前からの、感動の数々を振り返つてみれば、そう思わずにはいられなかつた。

チェックアウトの前に東京・江戸川区から藤巻夕里ふじまきゆりさんがやつてきた。真由子さんが東海大学病

院に入院中、頻繁ひんぱんに伊勢原にやつてきて励ましてくれているうちに、真由子さんには「おねえさん」というような存在になつていていた。何もなければ、そのまま東京へ行つて遊ぶことになつていていた。

藤巻さん自身、h i d e ファンのひとりだから、前日に h i d e の死を知つて平常心ではいられなかつた。さすがに前夜は、真由子さんを支える自信がなかつたが、テレビ局の知人に勧められて真由子さんに会うことにしてたのだ。

部屋から出てきた3人は、目を腫らしていた。泣いたせいかりでなく、ほとんど眠つていよいような顔だつた。

「なに泣いてんの。泣いてばかりいたら、お母さんが心配するでしょ。泣いて喜ぶ人はだれもいないじゃない。h i d e ちゃんも怒るよ」

スマミングクラブのインストラクターをやつていた藤巻さんは、肩幅が広い。ふだんは愛らしい顔そのままに実に優しいのだが、こういうことになると威厳がある。

「わかつた。じゃあ泣かない」

「よし。ご飯食べた？」

真由子さんは、前日の昼食のあと何も口にしていない。

「何やつてんの！ 食べなきやダメじゃないの」

ようやく、まる1日ぶりの食事をとつた。それでも安心はできない。h i d e の顔を見るまでは信じないと言つたことを、和子さんから聞かされた藤巻さんは釘を刺した。

「変な氣を起こしたら怒るよ。学校にも行かないなんて言つたら、それも怒るよ」

真由子さんは、少ししゃんとしてきた。

いつたん横浜の親戚宅に身を寄せた。マネジャーから葬儀日程を教えられ、遺体が築地本願寺に移されたと知つて、真由子さんは午後5時ごろ本願寺を訪れた。

ひつぎに納められたhideに対面して、さすがに真由子さんもhideの死が真実であると受け止めないわけにはいかなかつた。横浜で別れた藤巻さんが電話で言いきつた。

「顔を見たんだから、これで納得しなさい。hideに会えない人もいっぱいいるんだからね。真由子にはわかるでしょ」

真由子さんの前では氣丈に振る舞つた藤巻さんは、その夜、帰宅してから自分の部屋でありつけの涙を流した。

公務員である政人さんは、仕事の都合で5日に和歌山へ帰らなければならなかつたが、真由子さんと和子さんは最後まで見守ることになつた。

6日の通夜、7日の葬儀・告別式まで、真由子さんと和子さんは横浜の親戚宅から築地本願寺に通い詰めた。ふたりが和歌山の自宅に戻つたのは、10日の夜だつた。

2日後、真由子さんはリハビリ訓練を受けるため、日本赤十字社和歌山医療センターを和子さんとともに訪れた。

発病してからずつと診ててくれる小児科の田中里江子医師は、9歳の女児患者を10日に亡くし

たばかりだつた。この子は2度の骨髄移植を別の病院で受け、和歌山の病院に帰つてきてはけなげに闘病してきたものの、ついに力尽きてしまつたのだ。田中医師は5年半もの長いあいだ、この子の頑張りぶりを見つづけてきていた。

真由子さんは、田中医師の前に座つてから泣き顔を見せた。こんなことは、このときが初めてだ。それに誘われたかのように、田中医師が声を詰まらせながら語り始めた。

「真由ちゃん、先生もね、大事な大事な患者さんを亡くしたのよ」

けげんな表情に変わつた真由子さんに構わず、田中医師はつづける。

「真由ちゃん、もし『自分も死にたい』と思つても始まらないよ。忘れようと思つても、先生だつて忘れられないもの。泣きたいだけ泣いて、それからは前向きに生きるしかないんじやないの?」

田中医師も、患者の死から立ち直りきれていなかつた。

同じ気持ちを抱えたふたりは、このとき、主治医と患者の関係を超えていた。

「真由ちゃんはふたり分の命になつたんだよ。hideの分も生きなくちゃいけないんだから、前よりも、もっと頑張らないとね」

ふたりは涙をこぼしながら、両手を握りあつていた。

「うん、頑張る」

真由子さんは、少し間をおいて短く答えた。

h i d e の死がまぎれもない事実とわかつてから、しばらくのあいだ真由子さんを押し包んでいたのは「哀しさ」と「つらさ」だった。その後、それは「寂しさ」に変わつていった。

真由子さんにとっては、心の支えだった兄を亡くしたのと同じなのである。血はつながつていなくとも、真由子さんにとって h i d e は確実に兄だった。h i d e も、兄として振る舞つてくれた。

そう度々、会つてきたわけではない。しかし、これまでどんなに離れていても、パソコンのスイッチを入れてインターネットに接続すれば、h i d e にはEメールが送れたし、h i d e からも返事がきた。もう、それがかなわないのだ。

寂しさはつのるが、真由子さんはひたすら耐えようとしている。兄の死を現実のものとして見つめ、兄の分まで生きつづけたいと念じるようになつてきた。

同学年の文通友達である福岡県の折田和子さんに5月下旬、こんな手紙を送つている。呼びかけの「かづき」は、折田さんのXネームが華綉樹だからだ。

「かづき、大丈夫？」まゆは、なんとか大丈夫なんだけど、h i d e しゃんの話が出てくると泣けてくる。いつもね、h i d e しゃんのポスターを見ながら、話しかけてる。寂しくて寂しくてしょーがないんだ。

かづきも、弱音言つていいんだよ。

まゆなんか、いつも、弱音言つてるのに……。

生活の全てが h i d e しゃんで、繋がつてた。それは、これからも変わらない。

正直言つてね、「h i d e しゃんのいない人生なんて生きていけない。h i d e しゃんのところへ行きたい」つて思つてたんだ。

でも、愛してる人が悲しむよーなことはしたくないつて思えてきた。

h i d e しゃんの意志を受け継いでいくつて。命の大切さを人一倍知つてる人が自殺なんてことをするはずないじゃない？あれは、事故なんだよ。時々ね、すーっとぐく寂しくなるのね。心が壊れそなぐらい。現実を受け止めなきやいけないんだろーけど、まゆにはできないよ。かづき、精一杯生きていこーね。

今度、h i d e しゃんのところへ行つたらh i d e しゃんの曲で迎えてくれるよ。
ではでは、またね♪

もともと「頑張り屋さん」だった真由子さんが、h i d e をうしなつた寂しさを乗り越えられないにしても、進行性の難病と闘いながら家族や周囲の人々に笑顔を絶やさないのは、「優しさと、愛と勇気」をh i d e からもらつたためだ。